

3 質問紙調査の結果の概要及び考察

学習状況調査 小・中学校共通 質問紙 質問のねらい

質問番号	内 容	質 問 の ね ら い
1	(1) 教科の学習に対する児童生徒の意識について	(1) 国語の勉強が好きか。
		(2) 国語の勉強を大切に思っているか。
		(3) 社会の勉強が好きか。
		(4) 社会の勉強を大切に思っているか。
		(5) 算数（数学）の勉強が好きか。
		(6) 算数（数学）の勉強を大切に思っているか。
		(7) 理科の勉強が好きか。
		(8) 理科の勉強を大切に思っているか。
		(9) 外国語（英語）の勉強が好きか。
		(10) 外国語（英語）の勉強を大切に思っているか。
2	(1) 教科の学習に対する児童生徒自身の理解度について	(1) 国語の授業をどの程度理解しているか。
		(2) 社会の授業をどの程度理解しているか。
		(3) 算数（数学）の授業をどの程度理解しているか。
		(4) 理科の授業をどの程度理解しているか。
		(5) 外国語（英語）の授業をどの程度理解しているか。
3	(1) 授業に関する児童生徒の受け止めについて	(1) 自分の考えをもつことができているか。
		(2) 自分の考えを発表する機会が与えられていたか。
		(3) 互いの考えを話し合う活動を行っていたか。
		(4) いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりしているか。
		(5) 授業で学習への取組の様子を振り返っていたか。 【改】
		(6) 授業で学んだことをほかの学習に生かしているか。 【新規】
		(7) 授業でコンピュータなどのICTを活用したいか。 【新規】
		(8) 授業で分からないことをどのように解決しようとしているか。
4	(1) 家庭での学習の取組について	(1) 平日の学習時間はどれくらいか。
		(2) 休日の学習時間はどれくらいか。
		(3) 平日、どのような内容の学習に取り組んでいるか。
5	(1) 児童生徒の読書、新聞を読むことについて	(1) 1日の読書時間はどれくらいか。
		(2) 新聞を読む回数は何回か。 【新規】
6	(1) 児童生徒の進路意識・自己認識等について	(1) 自分によいところがあると思っているか。
		(2) 将来への夢や目標を持っているか。
		(3) 学習と生活や社会の結び付きを感じているか。
		(4) 地域の行事に参加しているか。
		(5) 自分の進路をどう考えているか。
7	(1) 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業期間中の児童生徒の家庭での生活・学習の様子について	(1) 普段学校へ行くときと同じ起床時刻、就寝時刻であったか。 【新規】
		(2) これからの学習に心配や不安なことがあるか。 【新規】
		(3) 臨時休業期間中の学習時間はどれくらいか。 【新規】
		(4) 臨時休業期間中取り組んだことのある家庭学習は何か。 【新規】
		(5) 今後、もし臨時休業になったとき、取り組みたい家庭学習は何か。 【新規】

◇概要及び考察◇（未回答の数値を表記していないため、100%とならない。）

（１）小学校第５学年

① 勉強について

（単位：％）

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	分からない
国語の勉強が好きだ。	平成26年度	24.8	39.8	23.1	10.4	1.8
	平成29年度	26.9	40.6	20.8	9.6	2.1
	令和２年度	27.0	41.4	21.0	8.4	2.1
国語の勉強は大切だ。	平成26年度	67.7	23.6	5.0	2.4	1.3
	平成29年度	72.2	20.1	4.6	1.9	1.3
	令和２年度	73.6	19.6	3.7	1.8	1.3
社会の勉強が好きだ。	平成26年度	34.9	35.2	19.1	9.1	1.6
	平成29年度	38.5	35.1	16.9	7.9	1.4
	令和２年度	38.1	33.7	18.1	8.4	1.7
社会の勉強は大切だ。	平成26年度	68.9	22.2	5.5	2.3	1.0
	平成29年度	71.4	20.3	4.5	2.4	1.3
	令和２年度	72.2	20.1	4.3	2.3	1.1
算数の勉強が好きだ。	平成26年度	46.0	30.1	14.2	8.3	1.5
	平成29年度	45.0	29.0	15.0	9.2	1.7
	令和２年度	41.6	28.4	17.2	10.7	2.2
算数の勉強は大切だ。	平成26年度	73.5	19.4	4.1	1.9	1.1
	平成29年度	75.9	16.5	4.2	2.2	1.1
	令和２年度	75.3	17.1	4.1	2.1	1.4
理科の勉強が好きだ。	平成26年度	69.1	22.7	5.5	2.2	0.6
	平成29年度	65.5	23.6	7.2	2.8	0.8
	令和２年度	59.6	26.9	8.6	3.7	1.0
理科の勉強は大切だ。	平成26年度	65.9	25.1	5.5	2.2	1.3
	平成29年度	69.4	21.2	5.5	2.4	1.4
	令和２年度	63.4	25.6	6.7	2.8	1.5
外国語（英語）の勉強が 好きだ。	平成29年度	62.8	23.3	7.9	4.6	1.3
	令和２年度	40.7	32.9	15.7	8.7	2.0
外国語（英語）の勉強は 大切だ。	平成29年度	77.4	15.3	3.7	2.1	1.4
	令和２年度	68.7	21.1	5.4	3.0	1.7

ア 概況

- 「勉強が好きだ（「そう思う」「どちらかといえそう思う」の合計。以下同じ。）」と回答した児童の割合は、理科が８割以上で最も高く、外国語（英語）、社会、算数、国語の順となっている。なお、国語において、その割合が前々回、前回調査を上回っている。また、「そう思う」と最も肯定的に回答した割合は、国語は前々回、前回から増加しているが、算数、理科、外国語（英語）は減少している。

- 「勉強は大切だ（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ。）」と回答した児童の割合は、国語、社会、算数で9割を超えている。国語の割合が最も高く、算数、社会、外国語（英語）、理科の順となっている。なお、国語、社会においては、その割合が前回調査を上回っている。

イ 課題

- 「勉強が好きだ」の項目については、国語、社会、算数、外国語（英語）で「好きではない（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計。以下同じ。）」と回答した児童が約2～3割いる。なお、外国語（英語）においては、その割合が前回調査を10ポイント以上高くなっている。

ウ 今後の対応等

- 児童の興味・関心や驚き、好奇心、疑問などを基に児童の学ぶ意欲を高めるための工夫をするとともに、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、学習内容をより深く学ぼうとする意欲を高めるための学習の充実を図る。
- 体験活動を含め、生活や社会との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動をさらに充実させていく。
- 各教科等において、児童に求められる資質・能力を育成するために、これまでの実践の蓄積を踏まえ、児童や学校の実態、指導の内容に応じ、言語活動の充実や学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るなど、学習活動の質を更に改善・充実するような工夫をする。
- 外国語（英語）においては、中学年での「外国語活動」を基に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように読んだり、書き写したりすることに段階的に取り組むような工夫をする。

② 授業について

(単位：%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半々	分からないことが多い	ほとんど分からない
国語の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	29.1	49.7	17.0	3.3	0.9
	平成29年度	36.0	45.4	14.5	3.1	0.9
	令和2年度	38.4	44.5	13.8	2.3	1.0
社会の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	33.6	42.8	17.6	4.8	1.1
	平成29年度	41.0	40.0	14.7	3.2	1.0
	令和2年度	43.5	38.7	13.7	3.1	1.0
算数の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	43.3	36.1	14.6	4.6	1.3
	平成29年度	45.4	33.9	14.8	4.5	1.4
	令和2年度	42.8	33.3	16.6	5.5	1.7
理科の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	54.6	34.5	8.7	1.8	0.5
	平成29年度	57.5	32.1	7.8	1.9	0.6
	令和2年度	55.8	32.3	9.2	2.0	0.7
外国語（英語）の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	48.2	32.8	12.5	4.4	2.1
	令和2年度	37.0	35.6	18.0	6.8	2.5

ア 概況

- 「授業が分かる（「よく分かる」「だいたい分かる」の合計。以下同じ。）」と回答した児童の割合は、理科が約9割で最も高く、国語、社会が8割を超えており、前々回、前回から増加している。

イ 課題

- 算数、外国語（英語）では、「授業が分からない（「分かることと分からないことが半々」「分からないことが多い」「ほとんど分からない」の合計）」と回答した児童の割合が2割を超えている。なお、外国語（英語）においては、その割合が前回調査よりも約8ポイント高くなっている。

ウ 今後の対応等

- 学習評価を適切に行い、児童の学習状況を的確に捉え、指導の改善に生かすとともに、ICT等を活用するなど、学習内容の理解を促すよう工夫する。
- 児童自らの課題に応じた家庭学習の内容や方法を計画できるよう指導する。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うために、単元や題材などの内容や時間のまとまりをどのように構成するか考え、実践し、その成果を検証することを継続していく。
- 外国語（英語）においては、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して自分の考えや思いを伝え合う言語活動を繰り返し取り入れるようにする。

③ 授業中の指導について

(単位:%)

		当てはまる	どちらかといえは当てはまる	どちらかといえは当てはまらない	当てはまらない
授業では、自分の考えをもつことができていると思う。	平成29年度	35.3	43.7	17.3	3.6
	令和2年度	36.3	43.5	17.4	2.8
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。	平成26年度	44.6	38.7	14.1	2.7
	平成29年度	48.7	34.3	13.2	3.8
	令和2年度	51.6	32.3	13.0	3.1
授業では、学級の中で、互いの考えを話し合う活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	39.9	42.4	14.9	2.8
	平成29年度	47.6	37.2	12.7	2.4
	令和2年度	45.7	38.2	13.4	2.7
授業では、いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。	平成29年度	37.9	40.5	17.9	3.7
	令和2年度	37.1	41.0	18.4	3.5
授業では、自分の学習への取組の様子などを振り返る活動をよく行っていたと思う。	令和2年度	36.2	41.3	18.7	3.8
【参考】授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	41.2	37.6	16.6	4.6

【参考】授業の最後に自分の学習への取り組みの様子などを振り返る活動がよく行われていたと思う。	平成29年度	37.5	40.1	17.5	4.8
授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていると思う。	令和2年度	44.9	38.7	13.2	3.1
授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う。	令和2年度	57.1	28.0	10.9	4.0

(今年度、授業中の指導方法に係る項目を追加した。)

ア 概況

- 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた」「授業では、互いの考えを話し合う活動をよく行っていた」「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したい」(いずれの項目も「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。以下同じ。)と回答した児童の割合は8割を超えている。

イ 課題

- 授業において、自分なりの考えをもち、その考えを深めたり、広げたりすることや、自らの学習への取組について振り返ることなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に係る取組について、2割の児童が「行われていない」(「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の合計)と回答している。

ウ 今後の対応等

- 授業では、児童に学習のねらいを明確に示し、自身の学習への取組の様子や考えの変化、新たな気付き・疑問などを振り返る活動を適宜計画的に行うようにする。その際、授業者は、学習活動の目的や意図を明確にもち、達成できているかどうかを適宜確認する必要がある。
- 授業の中で、互いに考えたり、発表したりする活動を行うことは、思考力・判断力・表現力等の育成に極めて重要であることから、引き続き、計画的に取り入れるようにする。
- 児童の発達段階を考慮し、ICTを活用しながら情報活用能力を確実に身に付け、発揮することにより、「主体的・対話的で深い学び」へつなげる必要がある。

○授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
平成26年度	22.6	13.9	53.6	53.7	4.2	38.9	10.7
平成29年度	29.9	19.3	62.4	57.7	5.3	46.0	13.5
令和2年度	34.0	23.1	67.7	57.6	5.5	47.2	14.4

ア 概況

- 児童が分からないことを多様な方法で理解しようとしていることがうかがえる。
- 授業の中で分からないことがあった場合、「友人にたずねる」と回答した児童の割合が増加し、約7割となっている。

イ 課題

- 分からないところを、「そのままにしておく」と回答した児童の割合が約1割おり、前回調査に比べ増加している。

ウ 今後の対応等

- 教師が一人一人の児童と触れ合う機会をつくり、児童と信頼関係を築き、児童が相談しやすい人間関係を構築する。
- 分からないことを児童自身が調べてみることも大切であることから、調べ方や調べたことのとめ方などを含めた指導をする必要がある。

④ 家庭学習について

□ 普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。
(単位：%)

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
平成26年度	6.0	16.2	44.6	25.8	5.8	1.6
平成29年度	6.1	16.4	45.0	26.7	4.4	1.5
令和2年度	5.5	15.7	42.6	28.8	5.7	1.7

□ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(単位：%)

	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	全くしない
平成26年度	2.6	8.4	19.4	39.8	25.8	4.0
平成29年度	3.2	9.0	19.8	38.7	25.1	4.3
令和2年度	3.2	9.8	18.7	38.7	24.5	5.1

□ 普段（月曜日から金曜日）、家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（複数回答）
(単位：%)

	ほとんど勉強しない	宿題が出れば、宿題をする	試験があれば、それにそなえて勉強する	予習をする	復習をする
平成26年度	3.2	75.4	31.7	42.9	
平成29年度	2.9	78.4	49.9	27.6	50.7
令和2年度	3.4	82.0	36.3	28.3	50.0

	興味があることについて自分で調べたり、確かめたりする	苦手な教科に取り組んでいる	時間を決めて、勉強をしている	学習する内容を自分で決めて、勉強をしている
平成26年度	24.8			
平成29年度	25.9	32.4	22.0	43.1
令和2年度	26.5	29.7	23.4	41.4

ア 概況

- 平日、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上（「2時間以上」、「3時間以上」を含む。）勉強している児童の割合は6割を超えている。
- 平日、児童が家庭学習に取り組んでいる内容としては、宿題の割合が約8割である。
- 休日に、1日当たり2時間以上（「3時間以上」、「4時間以上」を含む。）勉強している児童は3割以上おり、平日よりも1割以上多い。

イ 課題

- 平日あるいは休日に、家庭学習の時間が1時間より少ない児童が約3～4割いる。
- 休日に家庭学習を「全くしない」児童の割合が前回までの調査よりも増加しており、5%を超えている。
- 平日の家庭学習の内容について、前回調査と比較すると、苦手な教科に取り組んだり、自分で学習内容を決めたりする児童の割合が低下しており、自ら課題を設定して学習を進めることができている児童が少ない。

ウ 今後の対応等

- 学校や児童の実態を分析し、学年ごとの学習時間の設定や、教科ごとの学習方法について、教職員間で共通理解を図りながら改善していく。
- 児童が自主的に家庭学習に取り組めるよう、個に応じた学習内容や方法を具体的に指導するなど支援をする必要がある。また、特に、全くしない児童について、家庭学習の習慣化を図るために、保護者と家庭学習について情報共有しながら家庭との連携を図る必要がある。

⑤ 読書・新聞について

□1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 (単位：%)

	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全く、またはほとんどしない
平成26年度	12.6	22.9	27.2	15.8	21.4
平成29年度	17.4	26.8	32.2	11.0	12.4
令和2年度	15.3	27.4	31.0	12.3	14.0

□新聞を読んでいますか。 (単位：%)

	ほぼ毎日	週に1～3回程度	月に1～3回程度	全く、またはほとんど読まない
令和2年度	4.5	13.5	22.1	59.9

(今年度新たに新聞に係る項目を設定した。)

ア 概況

- 学校の授業以外での読書時間は、「10分以上、30分より少ない」が約3割で最も高い。30分以上（「1時間以上」を含む。）の読書をしている児童の割合が約4割である。
- 家庭や学校で、毎週（「ほぼ毎日」を含む。）新聞を読んでいる児童は約2割いる。

イ 課題

- 読書を「全く、またはほとんどしない」「10分より少ない」と回答した児童が約3割いる。
- 新聞を「全く、またはほとんど読まない」と回答した児童が約6割いる。

ウ 今後の対応等

- 学校や家庭において、読書習慣を身に付けさせる取組を工夫したり、保護者への協力を求めたりすることが必要である。
- 各教科等の学習において、新聞の適切な活用を図ることが重要である。

⑥ 自己認識や進路について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
自分には、よいところがあると思う。	平成26年度	28.7	46.4	17.9	7.1
	平成29年度	39.9	38.8	14.0	7.3
	令和2年度	41.2	40.2	12.6	5.9
将来の夢や目標を持っている。	平成26年度	72.2	17.0	6.6	4.2
	平成29年度	73.4	16.2	6.2	4.1
	令和2年度	69.6	18.1	7.6	4.6
普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい。	平成26年度	51.1	38.3	6.4	1.4
	平成29年度	44.4	38.8	13.1	3.5
	令和2年度	41.2	40.7	14.6	3.5
今住んでいる地域の行事に参加している。	平成29年度	50.8	24.7	12.7	11.7
	令和2年度	43.8	27.7	15.4	13.0

□将来どの学校まで進みたいですか。

(単位：%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の 学校まで	分からない
平成26年度	1.3	26.7	5.5	46.1	7.5	12.8
平成29年度	2.9	22.2	6.1	34.8	21.8	12.1
令和2年度	2.2	23.7	6.3	34.2	19.9	13.6

ア 概況

- 「自分には、よいところがあると思う（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。以下同じ。）」と回答した児童は約8割おり、前々回、前回調査より増加している。
- 「将来の夢や目標を持っている」「普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。以下同じ。）」と回答した児童の割合は毎回8割を超えている。

イ 課題

- 「普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の項目において、約2割の児童が否定的な回答（「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の合計。以下同じ。）をしており、前々回、前回から増加している。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目において、約3割の児童が否定的な回答（「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の合計。以下同じ。）」をしており、前回調査から増加している。

ウ 今後の対応等

- 児童は、おおむね自己肯定感が高く、将来への夢を明確に持っている傾向にあることから、今後も各教科等において、豊かな人間性を育む教育やキャリア教育を全校体制で進めることが大切である。
- 各教科等の学習において、地域や社会とのつながりをもたせた学習活動を計画的に設定し、児童に対し、学習した内容は、実生活で活かせることや自己の将来につながるという実感をもたせるための工夫をする必要がある。

⑦ 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業期間中の児童生徒の家庭での生活、学習の様子について

□令和2年3月から5月に学校が臨時休業になったとき、学校へ行くときと同じくらいの時刻に朝起きたり、夜寝たりすることができましたか。(単位：%)

	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
令和2年度	24.8	40.8	25.0	9.3

□学校の臨時休業から3～5か月たちましたが、これからの学習に心配や不安なことがありますか。(単位：%)

	ある	どちらかといえばある	あまりない	ない
令和2年度	4.3	19.7	34.9	41.1

□令和2年3月から5月に学校が臨時休業になったとき、家庭で1日およそどれくらいの時間勉強しましたか。(学習塾、家庭教師、学校とのオンライン学習も含む)(単位：%)

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
令和2年度	15.2	25.2	35.0	17.7	4.7	2.1

□令和2年3月から5月に学校が臨時休業になったとき、取り組んだことのある家庭学習は何ですか。(複数回答)(単位：%)

	学校からわたされた学習プリントや副教材(ドリルや問題など)に取り組む学習	家庭で買った問題集などに取り組む学習	教科書を使った予習	教科書を使った復習
令和2年度	86.4	35.1	35.6	54.5

	ICT(家庭のパソコンやタブレットなど)を使った、先生とやりとりをするオンライン学習	ICT(家庭のパソコンやタブレットなど)を使った、ドリルや問題などを解く学習	自分が住んでいる市町村が作成した授業動画を見て取り組む学習	文部科学省の「子供の学び応援サイト」を使った学習
令和2年度	15.6	19.8	1.7	1.8

□今後、もし学校が臨時休業になったとき、取り組みたい家庭学習は何ですか。（複数回答）

（単位：％）

	学校からわたされた学習プリントや副教材（ドリルや問題など）に取り組む学習	家庭で買った問題集などに取り組む学習	教科書を使った予習	教科書を使った復習
令和2年度	65.9	45.5	46.8	53.1

	I C T（家庭のパソコンやタブレットなど）を使った、先生とやりとりをするオンライン学習	I C T（家庭のパソコンやタブレットなど）を使った、ドリルや問題などを解く学習	自分が住んでいる市町村が作成した授業動画を見て取り組む学習	文部科学省の「子供の学び応援サイト」を使った学習
令和2年度	30.3	43.6	13.4	15.7

ア 概況

- 普段と同じ平日の起床時刻や就寝時刻で生活できた児童は約7割いる。
- 1日当たり1時間以上（「2時間以上」、「3時間以上」を含む。）勉強した児童は約8割おり、通常の平日の割合より約1割多くなっている。
- 家庭学習の内容として、「学校からわたされた学習プリントや副教材」に取り組んだ児童が約9割おり、通常の平日の「宿題をする」の割合より高くなっている。また、「教科書を使った予習」「教科書を使った復習」に取り組んだ割合は、通常の平日の「予習をする」「復習をする」の割合より、どちらも高くなっている。

イ 課題

- 臨時休業後の学習に心配や不安なことがある児童（「すごくある」、「どちらかといえばある」を含む。以下同じ。）が約2割いる。
- 臨時休業中に取り組んだ家庭学習の内容と、今後臨時休業になった時に取り組みたい家庭学習の内容の割合を比較すると、I C Tを使ったドリルや問題などを解く学習に取り組みたいと考えている児童の割合の差が最も大きい。

ウ 今後の対応等

- 臨時休業期間中であっても、学校へ行くときと同じ生活をし、学習時間を増やしている児童が多いことから、今後も感染予防に努め、規則正しい生活リズムを心がけることについて継続して指導していくことが必要である。
- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、児童の学びを保障することとの両立を図り、新しい生活様式を踏まえた教育活動を継続して行う。

(2) 中学校第2学年

① 勉強について

(単位:%)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	分からない
国語の勉強が好きだ。	平成26年度	21.2	38.9	26.6	10.8	2.5
	平成29年度	23.2	38.5	24.7	10.9	2.7
	令和2年度	23.6	40.8	24.0	9.5	2.2
国語の勉強は大切だ。	平成26年度	59.0	31.7	5.9	1.8	1.6
	平成29年度	65.0	27.5	4.1	1.9	1.4
	令和2年度	69.5	24.4	3.7	1.2	1.1
社会の勉強が好きだ。	平成26年度	30.7	34.0	22.4	10.9	2.0
	平成29年度	35.6	33.5	19.6	9.4	1.9
	令和2年度	35.7	33.4	20.4	8.7	1.8
社会の勉強は大切だ。	平成26年度	43.6	36.3	13.4	4.4	2.3
	平成29年度	48.8	33.4	11.2	4.3	2.3
	令和2年度	50.2	32.9	10.9	3.8	2.2
数学の勉強が好きだ。	平成26年度	29.5	30.4	22.7	15.1	2.4
	平成29年度	28.7	29.4	23.6	15.5	2.7
	令和2年度	30.3	30.3	22.2	14.9	2.4
数学の勉強は大切だ。	平成26年度	55.4	30.7	8.7	3.4	1.7
	平成29年度	58.1	28.0	8.5	3.5	2.0
	令和2年度	62.7	25.8	7.1	2.7	1.7
理科の勉強が好きだ。	平成26年度	35.9	35.3	18.8	8.3	1.7
	平成29年度	36.0	34.8	18.8	8.4	1.9
	令和2年度	37.1	35.4	18.0	7.8	1.7
理科の勉強は大切だ。	平成26年度	38.6	35.3	17.5	6.0	2.6
	平成29年度	41.4	32.5	16.7	6.6	2.8
	令和2年度	43.8	32.9	15.4	5.6	2.3
外国語(英語)の勉強が好きだ。	平成26年度	29.7	32.5	22.9	12.3	2.6
	平成29年度	31.2	31.5	21.5	13.1	2.7
	令和2年度	28.5	32.2	22.7	14.3	2.3
外国語(英語)の勉強は大切だ。	平成26年度	56.8	27.0	9.2	4.7	2.2
	平成29年度	60.2	23.9	8.7	4.7	2.4
	令和2年度	65.3	22.5	6.9	3.5	1.8

ア 概況

- 「勉強が好きだ」と肯定的に回答した生徒の割合は、理科が7割を超えて最も高く、国語において、その割合が前々回、前回から増加している。また、「そう思う」と最も肯定的に回答した割合は、国語、社会、理科において、前々回、前回から増加している。

- 「勉強は大切だ」と回答した生徒の割合は、国語が9割を超えて最も多く、すべての教科において、その割合が前々回、前回から増加している。また、「そう思う」と最も肯定的に回答した割合は、すべての教科において、前々回、前回から増加している。

イ 課題

- 「勉強が好きだ」の項目については、「好きではない」と回答した生徒が、国語、数学、外国語（英語）において3割以上いる。なお、国語については、その割合が前々回、前回から減少傾向にある。
- 「勉強は大切だ」の項目については、「思わない」（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計）と回答した生徒が、理科において2割以上いる。
- 「勉強が好きだ」「勉強は大切だ」の項目について、平成29年度調査（小学校第5学年時）との比較から、ほとんどの教科で「好きだ」「大切だ」との回答が減少している。

ウ 今後の対応等

- 生徒の興味・関心や驚き、好奇心、疑問などを基に生徒の学ぶ意欲を高めるための工夫をするとともに、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、学習内容をより深く学ぼうとする意欲を高めるための学習の充実を図る。
- 体験活動を含め、生活や社会との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていく。
- 各教科において、生徒に求められる資質・能力を育成するために、これまでの実践の蓄積を踏まえ、生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、言語活動の充実や学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るなど、学習活動の質を更に改善・充実するような工夫をする。

② 授業について

(単位:%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半々	分からないことが多い	ほとんど分からない
国語の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	18.0	51.6	24.7	4.6	1.1
	平成29年度	22.5	51.7	20.5	4.3	1.0
	令和2年度	25.8	50.3	19.5	3.9	0.5
社会の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	22.4	40.8	25.1	9.6	2.1
	平成29年度	29.7	40.2	21.2	7.4	1.5
	令和2年度	31.1	39.7	20.2	7.7	1.3
数学の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	26.0	36.1	23.9	11.0	3.0
	平成29年度	27.6	35.1	23.0	11.0	3.2
	令和2年度	30.5	34.1	21.9	11.0	2.6
理科の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	24.9	41.6	24.4	7.3	1.8
	平成29年度	27.5	40.3	23.0	7.5	1.7
	令和2年度	29.4	38.8	23.1	7.6	1.1
英語の授業がどの程度分かりますか。	平成26年度	24.2	35.7	24.5	11.7	3.9
	平成29年度	26.1	34.3	23.1	12.6	3.8
	令和2年度	25.5	33.5	24.4	12.8	3.7

ア 概況

- 「授業が分かる」と回答した生徒の割合は、国語が約8割で最も高く、国語、社会、数学、理科については、前々回、前回から増加傾向にある。

イ 課題

- 外国語（英語）の授業においては、「授業が分かる」と回答した生徒の割合が、6割以下である。
- 「授業が分かる」と回答した生徒の割合が、平成29年度調査小学校第5学年時との比較から、全ての教科で減少している。

ウ 今後の対応等

- 学習評価を適切に行い、生徒の学習状況を的確に捉え、指導の改善に生かすとともに、ICT等を活用するなど、学習内容の理解を促すよう工夫する。
- 生徒自らの課題に応じた家庭学習の内容や方法を計画できるよう指導する。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うために、単元や題材などの内容や時間のまとまりをどのように構成するか考え、実践し、その成果を検証することを継続していく。
- 外国語（英語）においては、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して自分の考えや思いを伝え合う言語活動を繰り返し取り入れるようにする。

③ 授業中の指導について

(単位:%)

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
授業では、自分の考えをもつことができていると思う。	平成29年度	30.1	45.7	20.4	3.8
	令和2年度	35.3	45.5	16.8	2.5
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。	平成26年度	37.4	44.8	14.9	3.0
	平成29年度	40.4	43.0	13.6	2.9
	令和2年度	46.8	39.9	11.1	2.1
授業では、学級の中で、互いの考えを話し合う活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	28.0	49.0	20.1	2.9
	平成29年度	41.8	42.5	13.5	2.2
	令和2年度	44.4	41.0	12.5	2.0
授業では、いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。	平成29年度	34.3	44.0	18.5	3.3
	令和2年度	39.8	41.8	16.1	2.3
授業では、自分の学習への取組の様子などを振り返る活動をよく行っていたと思う。	令和2年度	29.2	43.4	23.5	3.8
【参考】授業の最後に自分の学習への取り組みの様子などを振り返る活動がよく行われていたと思う。	平成29年度	24.0	43.1	27.1	5.8

【参考】授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	22.0	45.9	26.4	5.6
授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていると思う。	令和2年度	30.6	45.1	20.9	3.4
授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う。	令和2年度	50.3	31.0	13.6	5.1

(今年度、授業中の指導方法に係る項目を追加した。)

ア 概況

- 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた」「授業では、互いの考えを話し合う活動をよく行っていた」と回答した生徒は約9割おり、「授業では、自分の考えをもつことができている」、「授業では、自分の考えを深めたり、広めたりしている」を含め、肯定的に回答している生徒の割合が前々回、前回から増加している。
- 「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したい」と回答した生徒が約8割いる。

イ 課題

- 「授業では、自分の学習への取組の様子などを振り返る活動をよく行っていたと思う」の項目については、「行われていない」と回答した生徒が約3割いる。

ウ 今後の対応等

- 授業では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が着実に進められていることがうかがえる。今後さらに学習を振り返る活動を通して、学びに向かう力を高めるための取組を充実させていく必要がある。その際、授業者は、学習活動の目的や意図を明確にもち、達成できているかどうかを適宜確認する必要がある。
- 授業の中で、互いに考えたり、発表したりする活動を行うことは、思考力・判断力・表現力等の育成に極めて重要であることから、引き続き、計画的に取り入れるようにする。
- 生徒の発達の段階を考慮し、ICTを活用しながら情報活用能力を確実に身に付け、発揮することにより、「主体的・対話的で深い学び」へつなげる必要がある。

□授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
平成26年度	16.6	17.1	66.3	35.8	13.0	47.7	21.2
平成29年度	24.7	23.9	74.2	36.5	15.5	54.3	20.0
令和2年度	30.5	26.5	80.9	41.1	15.3	64.2	20.3

ア 概況

- 生徒が分からないことを多様な方法で理解しようとしていることがうかがえる。
- 授業の中で分からないことがあった場合、「友人にたずねる」と回答した生徒の割合が8割を超え最も高い。
- 前回調査と比較すると、「自分で調べる」と回答した生徒の割合は大きく増加している。

イ 課題

- 授業の中で分からないことがあった場合に、「そのままにしておく」と回答した生徒が約2割いる。

ウ 今後の対応等

- 教師が一人一人の生徒と触れ合う機会をつくり、信頼関係を築いた上で生徒が相談しやすい人間関係を構築する。
- 授業時間などにおいて、生徒が教え合ったり、教師が個別に補充したり、生徒が分からないことを質問したりする機会を意図的に設定していくことも重要である。

④ 家庭学習について

□ 普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（単位：%）

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
平成26年度	4.4	20.5	40.0	23.6	8.1	3.3
平成29年度	4.7	21.8	42.2	21.5	7.0	2.4
令和2年度	3.9	19.6	43.6	23.1	7.6	2.2

□ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（単位：%）

	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	全くしない
平成26年度	3.8	12.8	28.7	32.9	17.3	4.4
平成29年度	3.8	15.0	30.9	31.1	15.3	3.5
令和2年度	4.2	14.7	30.0	31.7	15.9	3.4

□ 普段（月曜日から金曜日）、家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（複数回答）

（単位：%）

	ほとんど勉強しない	宿題が出れば、宿題をする	試験があれば、それにそなえて勉強する	予習をする	復習をする
平成26年度	6.3	82.0	60.3	31.6	
平成29年度	6.1	84.3	69.5	14.1	44.9
令和2年度	5.7	89.1	65.9	17.5	51.8

	興味があることについて自分で調べたり、確かめたりする	苦手な教科に取り組んでいる	時間を決めて、勉強をしている	学習する内容を自分で決めて、勉強をしている
平成26年度	17.4			
平成29年度	18.6	30.5	18.6	37.9
令和2年度	23.7	32.8	22.4	45.7

ア 概況

- 平日、学校の授業時間以外に、1日当たり2時間以上（「3時間以上」を含む。以下同じ。）勉強している生徒の割合は2割を超えており、前々回、前回とほぼ同じ割合で推移している。
- 休日、1日当たり2時間以上勉強している生徒の割合が約5割となっており、平日に比べ家庭学習に取り組む割合が高い。
- 普段、予習・復習をしている生徒や、学習内容を自分で考えるなどして学習に取り組んでいる生徒の割合が、前々回、前回から増加している。

イ 課題

- 平日の家庭学習の時間が2時間より少ない生徒が約8割おり、前回までの調査より増加している。
- 休日の家庭学習の時間が1時間より少ない生徒が約2割いる。

ウ 今後の対応等

- よりよい家庭学習の方法や時間等について、校内で共通理解を図り、家庭学習の習慣化に全校体制で取り組むなど、生徒自身が主体的に家庭学習に取り組めるよう指導する。
- 家庭学習の時間を確保するために、学級活動等で生徒が家庭での過ごし方を振り返る活動を行ったり、家庭学習習慣の確立について保護者の協力を求めたりする。
- 生徒個々の習熟の状況に応じて発展的な学習内容や予習などの学習方法を提示するなど、生徒一人一人が工夫して家庭学習に取り組めるよう支援する。

⑤ 読書・新聞について

1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 (単位：%)

	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全く、またはほとんどしない
平成26年度	11.3	16.7	23.6	11.4	37.0
平成29年度	14.0	20.3	36.9	10.0	18.9
令和2年度	11.7	19.1	38.2	10.8	20.2

新聞を読んでいますか。 (単位：%)

	ほぼ毎日	週に1～3回程度	月に1～3回程度	全く、またはほとんど読まない
令和2年度	3.7	8.6	16.2	71.5

(今年度新たに新聞に係る項目を設定した。)

ア 概況

- 平日の読書時間が、「10分以上、30分より少ない」と回答した生徒が約4割いる。また、30分以上（「1時間以上」を含む。）読書をしている生徒も約3割いる。
- 家庭や学校で、毎週（「ほぼ毎日」を含む。）新聞を読んでいる生徒は約1割にとどまっている。

イ 課題

- 読書を、「全く、またはほとんどしない」と回答した生徒が約2割いる。
- 新聞を、「全く、またはほとんど読まない」と回答した生徒が約7割いる。

ウ 今後の対応等

- 読書を通して、知識や教養を広げることのよさや大切さについて生徒に気付かせ、自主的に読書をするよう、各教科等においても働きかけの工夫をする。
- 各教科等の学習において、新聞の適切な活用を図ることが重要である。

⑥ 自己認識や進路について

(単位:%)

		当てはまる	どちらかといえは当てはまる	どちらかといえは当てはまらない	当てはまらない
自分には、よいところがあると思う。	平成26年度	19.3	44.7	25.1	11.0
	平成29年度	25.0	45.1	21.1	8.8
	令和2年度	31.9	42.7	18.0	7.3
将来の夢や目標を持っている。	平成26年度	46.9	27.8	15.2	10.1
	平成29年度	47.4	27.7	15.4	9.5
	令和2年度	46.9	26.9	16.7	9.5
普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい。	平成26年度	51.5	38.6	6.0	1.8
	平成29年度	41.3	43.2	12.3	3.3
	令和2年度	44.3	41.7	11.7	2.3
今住んでいる地域の行事に参加している。	平成29年度	38.0	29.7	17.2	15.0
	令和2年度	32.6	29.8	19.8	17.6

□将来どの学校まで進みたいですか。

(単位:%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校まで	分からない
平成26年度	0.5	28.8	8.6	44.0	5.4	12.5
平成29年度	1.0	22.5	5.8	41.6	14.8	14.1
令和2年度	0.6	21.3	5.1	44.5	15.0	13.5

ア 概況

- 「自分には、よいところがあると思う」と回答した生徒は約7割おり、前々回、前回調査から増加している。
- 「普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」と回答した生徒は毎回8割を超えている。

イ 課題

- 「将来の夢や目標を持っている」の項目について、約3割の生徒が否定的な回答をしており、前々回、前回調査から微増している。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目において、約4割の生徒が否定的な回答をしており、前回調査から増加している。

ウ 今後の対応等

- 生徒は、おおむね自己肯定感が高く、目標を明確に持っている傾向にあることから、今後も各教科等において、豊かな人間性を育む教育やキャリア教育を全校体制で進めることが大切である。

- 各教科等の学習において、地域や社会とのつながりをもたせた学習活動を計画的に設定し、生徒に対し、学習した内容は、実生活で活かせることや自己の将来につながるという実感をもたせるための工夫をする必要がある。

⑦ 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業期間中の児童生徒の家庭での生活、学習の様子について

□令和2年3月から5月に学校が臨時休業になったとき、学校へ行くときと同じくらいの時刻に朝起きたり、夜寝たりすることができましたか。(単位：%)

	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
令和2年度	17.1	35.3	31.3	16.3

□学校の臨時休業から3～5か月たちましたが、これからの学習に心配や不安なことがありますか。(単位：%)

	ある	どちらかといえばある	あまりない	ない
令和2年度	6.5	32.5	37.7	23.3

□令和2年3月から5月に学校が臨時休業になったとき、家庭で1日どれくらいの時間勉強しましたか。(学習塾、家庭教師、学校とのオンライン学習も含む)(単位：%)

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
令和2年度	17.3	28.4	30.5	14.8	6.3	2.7

□令和2年3月から5月に学校が臨時休業になったとき、取り組んだことのある家庭学習は何ですか。(複数回答)(単位：%)

	学校からわたされた学習プリントや副教材(ドリルや問題など)に取り組む学習	家庭で買った問題集などに取り組む学習	教科書を使った予習	教科書を使った復習
令和2年度	91.5	31.4	29.1	62.2

	ICT(家庭のパソコンやタブレットなど)を使った、先生とやりとりをするオンライン学習	ICT(家庭のパソコンやタブレットなど)を使った、ドリルや問題などを解く学習	自分が住んでいる市町村が作成した授業動画を見て取り組む学習	文部科学省の「子供の学び応援サイト」を使った学習
令和2年度	17.8	24.7	2.4	1.4

□今後、もし学校が臨時休業になったとき、取り組みたい家庭学習は何ですか。（複数回答）

（単位：％）

	学校からわたされた学習プリントや副教材（ドリルや問題など）に取り組む学習	家庭で買った問題集などに取り組む学習	教科書を使った予習	教科書を使った復習
令和2年度	73.4	43.6	48.4	60.9

	I C T（家庭のパソコンやタブレットなど）を使った、先生とやりとりをするオンライン学習	I C T（家庭のパソコンやタブレットなど）を使った、ドリルや問題などを解く学習	自分が住んでいる市町村が作成した授業動画を見て取り組む学習	文部科学省の「子供の学び応援サイト」を使った学習
令和2年度	31.4	46.9	11.9	11.7

ア 概況

- 普段と同じ平日の起床時刻や就寝時刻で生活している生徒は約5割いる。
- 1日当たり2時間以上勉強している生徒は約5割おり、通常の平日の割合の約2倍である。
- 家庭学習の内容として、「教科書を使った予習」に取り組んだ生徒が約3割おり、通常の平日の割合よりも多くなっている。

イ 課題

- 臨時休業後の学習に心配や不安なことがある生徒は約4割いる。
- 臨時休業中に取り組んだ家庭学習の内容と、今後臨時休業になった時に取り組みたい家庭学習の内容の割合を比較すると、I C Tを使ったドリルや問題などを解く学習に取り組みたいと考えている生徒の割合の差が最も大きい。

ウ 今後の対応等

- 臨時休業期間中であっても、学校へ行くときと同じ生活をし、学習時間を増やしている生徒がいることから、今後も感染予防に努め、規則正しい生活リズムを心がけることについて継続して指導していくことが必要である。
- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、生徒の学びを保障することとの両立を図り、新しい生活様式を踏まえた教育活動を継続して行う。

(3) まとめ

① 教科の学習に対する児童生徒の意識について

勉強については、多くの教科において「好きだ」、「大切だ」と肯定的に回答している児童生徒の割合が引き続き高い。特に、中学校においては、ほとんどの教科において前回の調査結果を上回っており、良好な状況となっている。

今後は、各教科においては、引き続き、授業の導入段階で学習意欲を喚起、向上させる工夫をしたり、各教科等の特質に応じた体験活動の充実に取り組んだり、児童生徒自らが学習課題や学習活動を選択する機会を設けたりするなど、創意工夫を生かした教育活動を充実することが必要である。

今年度から全面実施となった小学校の外国語（英語）に対する児童の意識については、「好きだ」と肯定的に回答している児童の割合は、前回の調査結果を10ポイント以上下回っている。前回の調査は、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーションを図る素地を養う「外国語活動」を対象とした意識調査であり、今回は、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する「外国語科」を対象とした意識調査となっている。また、前回調査した「外国語活動」は週1単位時間、今回調査した「外国語科」は週2単位時間の授業が行われている。前回調査結果を下回った背景には、教科書を使用した学習内容の違いや授業時間数の増加が影響したものと考えられる。

児童の意識について、肯定的な回答が前回の調査から10ポイント以上下回っているものの比較的高い割合で維持されていることから、各校においては「外国語活動」から「外国語科」への転換に向け、おおむね円滑に対応がなされていると捉えているが、今後は、中学年での「外国語活動」を基に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように読んだり、書き写したりすることに段階的に取り組むとともに、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定した言語活動を取り入れるなど、留意すべき事項を再確認しながら、児童の学習意欲を高めるため「外国語活動」から「外国語科」への接続に留意した取組が必要である。

② 教科の学習に対する児童生徒自身の理解度について

「授業が分かる」と肯定的に回答した割合は、小・中学校ともに約6割を超え、確かな学力の定着に向け、授業が改善されつつあることがうかがえる。

児童生徒の学習意欲と学習内容の理解には、相関関係があると考えられることから、今後も児童生徒の学習意欲や定着の状況の見取りを基にして、児童生徒に求められる資質・能力を確実に育成することが大切である。

また、小学校の外国語（英語）に対する児童自身の理解度については、「授業が分かる」と肯定的に回答した割合は7割を超えているが、前回の調査結果を8ポイント以上下回っている。このことについては、中学年での音声を中心とした外国語活動から、文字を「読むこと」「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習としての活動に変わったことが影響したものと考えられる。今後は、児童が外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識し、自分の考えなどを伝え合う言語活動を取り入れることや、言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動に繰り返し取り組む工夫をしたりして、様々な手立てを通じて主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることなど、工夫した取組が必要である。

③ 授業に関する児童生徒の受け止めについて

児童生徒が自身の学習を振り返ることなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関わる各設問への回答状況は、前回の調査結果に比べ、小学校では大きな変化は見られないが、中学校では肯定的に回答した割合がおおむね上昇している傾向に見受けられる。

今後も引き続き、自分自身の学習への取組の様子や考えの変化、新たな気付き・疑問、学習内容や他教科等の学習内容を関連付ける視点での振り返り活動や、いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりする活動を計画的に取り入れることが重要である。また、分からないことは多様な方法で理解しようとしている傾向があり、ほとんどの項目が前々回、前回に比べ、増加している。一方、小学校においては、「そのままにしておく」と回答した児童が年々増加している。今後は、分からない学習内容についての調べ方や調べたことのまとめ方などを含めた指導をする必要がある。

④ 家庭での学習の取組について

家庭学習については、平日1時間以上取り組んでいる児童生徒が6割以上、休日1時間以上取り組んでいる児童生徒が7割以上で、習慣化されている状況の一方で、家庭学習の時間が確保されておらず、支援の必要な児童生徒が一定数いる状況である。

今後も、小学校高学年では平日1時間以上、中学校では平日2時間以上の学習時間を目安として、児童生徒自らの課題に応じた学習内容や方法を計画させる活動に継続して取り組むとともに、保護者面談などの場を活用して家庭学習習慣の確立について話し合い、保護者と協力体制を築き、連携していくことが大切である。

⑤ 児童生徒の読書、新聞を読むことについて

読書については、習慣化している児童生徒が一定数いる一方で、小学校では約1割、中学校では約2割の児童生徒が全く、またはほとんど読書をしていない状況にある。また、新聞を読むことについては、小学校では約6割、中学校では約7割の児童生徒が、家庭や学校で新聞を全く、またはほとんど読んでいない状況にある。

今後は、読書が児童生徒の言語能力の育成等に寄与することが期待されることから、各教科等において学習内容と関連する本を紹介するなど、児童生徒がより一層読書に親しむ工夫をする必要がある。また、新聞を読むことが児童生徒の情報活用能力の育成等につながることを期待されることから、学校図書館に新聞を整備し、読むことができる環境を整えたり、各教科等において新聞を適切に活用し、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」へつなげたりするなど、工夫をした取組が必要である。

⑥ 児童生徒の進路意識・自己認識等について

児童生徒の自己認識や進学については、小・中学校ともに自己肯定感が高く、将来への夢を明確にもっている傾向にあり、高校卒業後の上級学校への進学を考えている児童生徒が多い。

今後は、活動の過程を記述し振り返ることができるキャリア・パスポートの活用を通して、児童生徒が自己の変容を把握し、将来の生き方を考える活動を行うなど、特別活動を要として、学校の教育活動全体を通してキャリア教育を行い、現在の学びと将来の自己の姿をつなぐ活動を取り入れることが重要である。

加えて、各教科等と総合的な学習の時間を関連付けながら、児童生徒が自ら地域の行事や活動に参加できるような環境を整えたり、児童生徒に地域のよさや課題を発見させたり、その解決策を考えさせたりするなどの探究的な学習に取り組むことにより、社会参画の意識を高める必要がある。

⑦ 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業期間中の児童生徒の家庭での生活・学習の様子について

臨時休業期間における起床時刻、就寝時刻については、普段の平日とおおむね同じであると回答した児童生徒は、小学校では約7割、中学校では約5割となっている。今後、臨時休業があった場合の家庭での過ごし方を指導する際は、各校の実態を踏まえ、生活習慣の乱れが生じないよう工夫した取組が必要である。

臨時休業後の学習に不安を抱えている児童生徒の割合は、小学生よりも中学生が多いが、各学校において、学習面では時間割編成や長期休業期間の見直し、学校行事の重点化など教育課程を見直したり、教育相談の充実やスクールカウンセラーの活用を図ったりして対応しているところと思われる。今後も、各学校において、本調査や各種アセスメントツールを十分活用しながら、教育相談等により児童生徒一人一人の学習に対する悩みや不安を聞き取り、児童生徒に寄り添った対応をすることも大切である。

臨時休業中の家庭学習については、普段の平日に比べ、学習時間が多くなっているが、小学校においては約3割、中学校においては約2割の児童生徒の学習時間が1時間未満となっている。また、学習内容についてはほとんどの児童生徒が、学校から配布されたプリントや副教材などに取り組みんでおり、ICT等を活用したオンライン学習は約2割となっている。

臨時休業中に取り組みんだ家庭学習の内容の割合と、今後臨時休業になったときに取り組みたい家庭学習の内容の割合を比較すると、学校から配布された学習プリント等の割合が減少し、家庭で買った問題集、教科書を使った予習、ICTを使ったオンライン学習やドリル学習等に取り組みたいと考えている児童生徒の割合が高くなっている。

このような状況から、新型コロナウイルス感染症への感染防止に向けた臨時休業等への対応として、児童生徒の「学びの保障」を確実に進めることが必要である。これまでの国からの各通知文等で示されているとおり、新型コロナウイルス感染症対策と学びの保障の両立を図り、新しい生活様式を踏まえた学校教育活動を実施していくことが求められる。

また、臨時休業の長期化などにより、学校の授業における通常の学習活動で指導を終えることが困難な場合の特例的な対応として、授業で行う活動を学校でしか実施できない活動に重点化するとともに、家庭における学習の支援については、家庭等と連携してICTを最大限に活用するなどし、学習の状況・成果を丁寧に把握することが大切であり、その際には、県教育委員会が作成した教科書を使用する予習を基にした家庭学習等のモデル例を活用するなど、児童生徒への支援を適切に行うことも必要である。

県教育委員会では、ホームページ (<http://www.pref.aomori.lg.jp>) に、以下のとおり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、臨時休業中の家庭学習等についての資料を掲載しておりますので、参考にしてください。

- 「臨時休業等に備えたオンライン（遠隔）学習導入に当たって」
- 「家庭学習に教科書を使用した予習を取り入れよう」
- 「学びの質を高める授業改善プロジェクト事業『学びの質を高める授業スタンダード』」
- 「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 本県の結果と今後の対策」
- 「新しい時代を主体的に切り拓く小中学生育成支援事業 研究実践校報告書集」